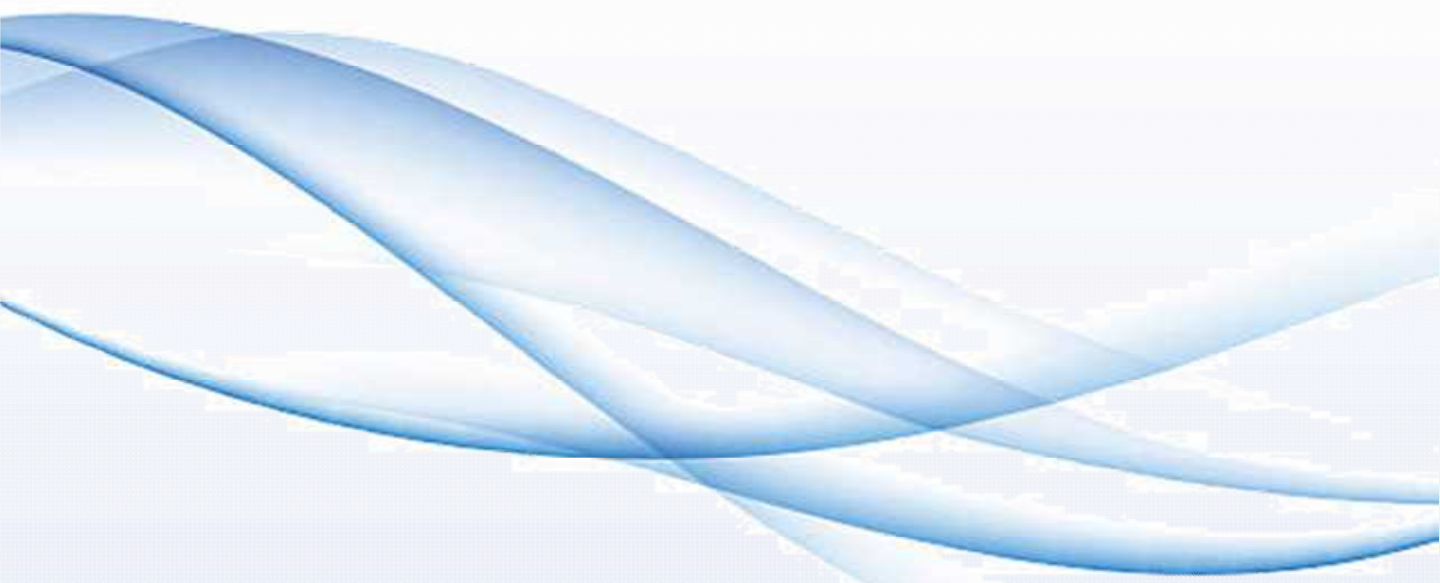




私の提案



令和3年度 信濃教育会
特別支援教育研究調査委員会



目次

-
- 01 「やってみたい」気持ちはあるが、一歩踏み出せない A さん <知障学級 中学1年生>
軽井沢町立軽井沢中学校 飯島 智子
-
- 02 生徒の「やりたい!みんなでやってみたい!!」活動から自立課題を見つける
～教室に入らない、授業に参加しないAくんの事例を振り返る～
岡谷市立岡谷東部中学校 山崎 将文
-
- 03 学習やかかわりの中で「できるようになりたい」「友達と仲良く遊びたい」と思っているけれど、
気持ちのコントロールが苦手な A さん <自情障学級 小学校4年生>
飯田市立竜丘小学校 山岸 育代
-
- 04 自閉症・情緒障がい学級の児童が、無理なく楽しく集団活動に参加していくための支援
～特別支援学級が複数ある大規模校の実情に応じた支援体制づくり～
安曇野市立三郷小学校 布山 晶子
-
- 05 気持ちのコントロールがうまくできず、怒って物や人にあたってしまうAさん
<知障学級 小学3年生>
池田町立池田小学校 坂野みゆき
-
- 06 自閉症スペクトラム児の他者との関わりを育む有効な支援と手立てについて
～興味のないことはやらず、一人の世界でなんでも自己完結してしまう A さんの姿から～
<自情障学級 小学校5年生> 千曲市立更級小学校 小出 沙希
-
- 07 感情の調整が難しく、学校で暴言や暴力で周りの人とかかわることが多かった A さん
<自情障学級 小学校5年生>
飯山市立飯山小学校 田中 利恵
-
- 08 自分の気持ちを表すことが苦手な A さん ～自情障学級 中学3年生～
長野市立篠ノ井西中学校 手塚 亮
-
- 09 自・情障学級におけるコミュニケーション活動の実際
～気持ちの表出が苦手な A さんと気持ちのコントロールが苦手なBさんの関わりを通して～
松本市立波田小学校 大塩 貴子
-
- 10 場面緘黙で、日常生活や朝の会の司会・感想発表を自分の言葉で伝えることがなかった A さん
<小学部 6 年>
長野県上田養護学校 岡嶋 国久
-
- 11 日々の安心安全、楽しさを保障すると共に、子どもがこれからの人生を楽しむために
自分達ができることは何なのかを考える。 【A さん 小学部5年生 自閉症・知的障害】
須坂市立須坂支援学校小学部 天野 道子
-
- 12 生徒や教員が、エンパワメントな関わり方や話の聞き出し方を学ぶことで、
生徒の心身の自立活動やよりよい人間関係の形成に寄与する。
長野県穂高商業高等学校 宮坂 幸登

私の提案



軽井沢町立軽井沢中学校
飯島 智子

「やってみたい」気持ちはあるが、一歩踏み出せない A さん

<知障学級 中学1年生>

★支援の目標★

◆先の見通しを持つことで不安を感じることなく新しい事にも自ら挑戦できるようになる。

(自立活動「心理的な安定」「人間関係の形成」)

◆周りの状況や相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度をとることができるようになる。

(自立活動「人間関係の形成」「コミュニケーション」)

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

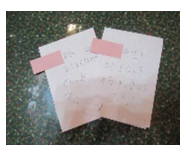
1 Aさんをクラスの黒板係として、友だちのことを考えながら、どのようにすればみんなが過ごしやすく、安心した毎日が過ごせる環境が作れるかを考えた。

そこから出てきたのが「スケジュールの管理」



自分達が必要な項目を pickup した年間表に市販のカレンダー（誕生日等記載）、週表は登校日か否か。予定表は1学期は教科担当先生の名前が書かれ、2学期は場所や持ち物へと変わってきた。そして自ら情報を集めてまわるようになってきたので→2へ。

2 SST (市販本から独自のメモ帳やパラパラ漫画へ)



市販本を活用して「〇〇をするときに必要なことは何?」「〇〇時はどうする」等、必要な場面での SST を繰り返し練習。その後、苦手な部分のみ、実践に合わせた独自の SST カードを本人が自分で作成。「〇〇先生と仲良くなる⑧メモ」や会話のパラパラ漫画等を作成。本人が「お守り!」と言ったように安心と、場面に応じ、どのメモ帳 (SST) が必要かが自然と身についた。

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1: 何でもとかく try! 本人が必要としている支援が自然と残る。

Point2: 支援グッズは本人とともに作る。「一緒」が一番。グッズに愛着も生まれる。

Point3: 支援者の「こだわり」を捨てる。無色無形で柔軟に。

Point4: 支援は楽しく。ご褒美 (本人、支援者も) も忘れずに (^^)

市販の支援グッズや市販本、ネット情報や講演会等での推薦本、品など、自作に拘らず生徒と一緒にまずやってみることが大事。余計な支援は生徒が使わない。必要なものが残り改良されて独自のものに作り上げられる。支援者も拘りを捨てて楽しく自然にが一番。

私の提案



岡谷市立岡谷東部中学校
山崎 将文

生徒の「やりたい!みんなでやってみよう!!」活動から自立課題を見つける
～教室に入らない、授業に参加しないAくんの事例を振り返る～

★支援の目標★

- ◆友と関わりながら、楽しく過ごせる人間関係を築く。〔3人間関係の形成 ①他者との関わり基礎〕
- ◆ルールを守ったり、遊び方を友だちに伝えたりする。〔3人間関係の形成 ④集団への参加の基礎、6コミュニケーション ③言語の形成と活用〕
- ◆自分のやりたい活動を提案し、受け入れられることで、自己肯定感を高める。〔2心理的な安定 ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲〕

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

きっかけは、当時1学年のAくんが持ってきたカードゲーム。「これ見て!」と自分の意思をあまり示さないAくんが、みんなに見せたポケモンカード。それを見て集まってくる知障学級利用者。Aくんは「持ってるだけで、遊んだことないんだよね。」と言います。すると、Bさんが「私も持ってるから一緒にやる?」と話しました。翌日からカードゲームをやることに…。

(1) 一教師として抵抗があったカードゲーム

普段やりたいことのないAくんが、「やってみよう!」と言った活動なので見守ってみる我慢をしました。すると、みんなカードバトルをやったことがなく、ネットでやり方動画を見たり、HPで調べたりしながら複雑なルールを覚えました。普段ルールも守らないAくんも、自分から提案したカードゲーム。ルールを守りながら活動します。友だちからは「カードゲーム楽しかったね」「Aくん、ルール守っていたじゃん!」と賞賛の声の嵐!自分の抵抗感が崩れた場面でした。

(2) カードゲームからそれぞれの課題克服や学習方法を考えたBさん

自分の考えを述べることの苦手なAくん、Cくんのことを知って「もっと仲良くなりたい!」という願いをもったBさんが見つけたのは100円ショップで売っている『おかみ少年だあれ?』。テーマがあることで、自分の語れることを話す2人。2人のことを知れて嬉しいBさん。学級として人間関係が築かれていることを感じました。そして、勉強することの嫌いなAくんやCくんのことを想い、Bさんが私に提案してくれたのは「カードゲームを上手く使えば、勉強するんじゃない?」

おかみ少年だあれ



(3) カードゲームを勉強につなげよう!

最初にたどりついたのは100円ショップのカルタ。でも、学習要素が強すぎてAくん取り組みず。次は漢字をつくるカードゲーム。「漢字なんか知るか!」とゲーム放棄するAくん。結局、カードゲームで学習はできずに、ポケモンカードを続ける3人と内心焦る私。※Cくんはカルタも漢字カードゲームも楽しそうに取り組みました。

(4) カードゲームの成果

2年生になってからも色々なカードゲームをしながら日々の学習を進めてきました。Aくんにある変化が起きます。今まで、教科の授業は廊下に飛び出していたはずなのに、社会や理科、英語の授業に出るようになりました。でも、プリントを配ると破り捨てます。それでも気にせずに授業を続けると、私の質問に「○○でしょ!」と答え始めました。また、授業の復習をすると、「□□!」と口頭で答えを言いました。Aくんは「オレ、覚えられるけど、書くの嫌いなんだよね。」と自分のことを語りました。入学当初から、人間関係を作ることが苦手なAくんが、カードゲームを通して、友だちと関係を作り、教室が自分の居場所になり、気持ちが落ち着いたことで、プリントや教科書は見ないけど授業に参加できるようになりました。当時は私以外の大人が関わることは難しかったのですが、2年生3学期の今は色々な先生と関われるようになりました。



いろいろ試したらこんなに増えたカードゲーム



カードゲームから派生!市販教材にちょっと手を加えて…図を見て単語当てゲーム

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

- ①遊びから始まった活動でも、子どもが「やりたい!」活動は、大人の視点を変えることで自立活動になる。
- ②人間関係が築かれなかったら、学習は成り立たない。慌てずに飽きるまで一緒に遊んで人間関係を築こう。

私の提案



飯田市立竜丘小学校
山岸 育代

学習やかかわりの中で「できるようになりたい」「友達と仲良く遊びたい」と思っているけれど、
気持ちのコントロールが苦手な A さん <自情障学級 小学校4年生>

★支援の目標★

◆場面や状況に合わせて気持ちのコントロールをし、適切なかわり方が増える。

(自立活動「人間関係の形成」「コミュニケーション」)

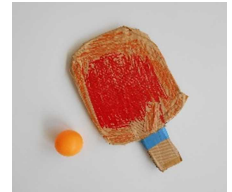
★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

1 興味関心を生かした自立活動の場面設定

(1) 名付けて“ドンマイ卓球”!

身体を動かすことが大好きな A さん。ラケットを作って卓球をする B さんを見て、A さんも段ボールでラケットづくり
に挑戦。「うまくできないっ!」と言って段ボールをビリビリ破こうとした。教師が、「ラケットの形を写し取って切り取る方
法もあるよ」と声をかけて写し取り方を演示すると、破こうとした手を止めた。また、教師が「B さんにどう伝えるといい
のかな?」と尋ねると、「ラケットを作るから、B さんの(作った)ラケット、貸して」と落ち着いて伝えることができた。

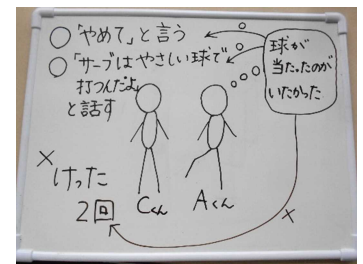
自分のラケットが出来上がると、教師と二人で卓球スタート。しかし、力のコントロールが難しく、「ギャー」と大声を
出したり物にあたったりして、その度中断し満足にできないことにいら立つ悪循環になった。そこで、イライラした時に
使う魔法の言葉として、“ドンマイ”という言葉を使うようにした。次第に「ギャー」が減って、「(次の球を打つても)いい
よ」と言って卓球が中断しなくなった。さらに、B さんや他の友達、他クラスの教師とも楽しめるようになっていった。



2 場面や状況の見える化、うまくいくコツ(手がかり)の具体化

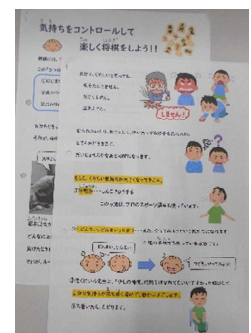
(1) 「どんな気持ちだった?」「どうすればよかった?」

C さんと卓球をした時のこと。C さんのサーブで勢いよく球が飛び、A さんの胸部
に当たった。とっさに、「何するんだ、わざとやったな!」と C さんを蹴った。その後、ホ
ワイトボードを使って、“どんな気持ちだったのか”、“何をしたのか”、“どうすればよ
かったのか”を、吹き出しや○×の記号も使いながらまとめた。あわせて、教師と実際
に卓球をし、その時の状況を再現して改めて状況を整理した。すると、徐々に落ち着
いてきて、C さんに謝ると共に蹴らない別の方法を確認できた。



(2) イライラの(くやしい)気持ちを減らすコツー気持ちをコントロールして、楽しく将棋をしよう

卓球に加え、友達と将棋も始めた。自分から、「教えて」と言い、友達に教えてもらってルール
を覚えていったが、追い込まれると「ギャー」の声が出たり駒の配置をぐちゃぐちゃにしたりする
ことがあった。そこで、イライラしたら(くやしい気持ちが大きくなったら)どうするかを A さんと
一緒に考えて紙にまとめ(①呼吸法…深呼吸する、②「ドンマイ、ドンマイ」と言う、③自分の気
持ちは落ち着く場所で静かに過ごす)、将棋をする前に確認したり後で振り返りをしたりする
ときに使った。ただ、イライラした時にとっさに使えるかという点、難しいのが課題である。



★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1 興味関心を生かした活動(学習)を設定する。

・・・実態把握を丁寧に行い、個別の指導計画の“支援の目標”に向けて、自立活動を積み重ねていく。

Point2 本人の思いや願いを十分聴き、一緒に考えていくスタンスでかかわる。

・・・否定や説得から入らず、まずは共同生活者として共感的立場でかかわる。

Point3 本人の「納得」を大切にする。

・・・納得できることで、自分の気持ちや言動を客観的に見つめることができ、次の学びにつながっていく。

私の提案



安曇野市立三郷小学校
布山 晶子

自閉症・情緒障がい学級の児童が、無理なく楽しく集団活動に参加していくための支援 ～特別支援学級が複数ある大規模校の実情に応じた支援体制づくり～

★支援の目標★

- ◆自分の学級だけでなく、特別支援学級として足並みをそろえながら対応するための支援体制を考え、提案する。
- ◆児童の特性に配慮しつつ、複数の担任で支援体制が組めるようにし、日常的に実施する。

★★私たち（三郷小）が取り組んだこととその成果★★

1 三郷小の現状と課題

- ・特別支援学級（通称あすなろ学級）が9学級（知障3・自情障6）。在籍児童が70人余り。担任9名 支援員2名。
- ・学年によって在籍児童数にばらつきがある。特に5年と1年の在籍児童が20名を超える。
- 課題①：特別支援学級自体が大所帯で、特別支援学級全体としての方向性が見えにくい。
- 課題②：学校行事や特別支援学級の行事への参加に当たって、児童支援や事前指導がそれぞれの支援学級の対応になってしまっていることがある。また、支援が在籍人数の多い学年に偏ってしまいがちである。

2 支援体制づくりとその成果

（1）複数学級で、朝の会やSST合同授業を実施する。（知障3クラス 自情障2クラスずつで実施）

- ・ペアの学級で朝の会を行い、行事や日課の確認を毎日行ってきた。朝の会から1時間目までの流れが定着し、児童が見通しを持って1日を始められるようになった。また、ペアの学級では、教師も児童も顔見知りになったので、不安のある児童も、ペアの学級で一緒に活動することができるようになり、自習体制が組みやすくなった。
- ・SSTは、学年会で指導案を検討し、共通の教材を作成。その共通教材をもとに、児童の実態に応じた授業をペアの学級で行ってきた。職員が2人いることで、TT指導がしやすく、ロールプレイで子どもに提示ができた。また、どの職員も学習したスキルを日常的な指導や振り返りの場面で話題にできるようになった。
- ・コロナ禍で学年集会が難しい状況でも、ペアの学級で共通資料を扱うことで、学年行事の事前指導がスムーズにできた。

（2）あすなろ音楽、あすなろ体育、あすなろ英語を実施する。

- ・CT担当とST担当、合同授業に参加しない児童の支援者の3つを、支援学級職員で役割分担して進めた。原級では参加が難しい児童も、あすなろの音楽や体育、英語には楽しく参加できるようになった。

（3）水泳指導、学年運動会・音楽会、持久走大会へ向けの特設授業

- ・各学年の行事に応じて担当を決め、該当児童を集めての特設授業を行った。

例：1年生：音楽会の鍵盤ハーモニカ練習・通し練習、遠足・持久走大会への参加の仕方など

- ・学年行事において、「集団で話を聞く」「行動練習をする」場面を支援学級内で設定することで、個別対応が必要な児童も、学年行事（大きな集団での活動）へ見通しや心構えをもって参加することができた。

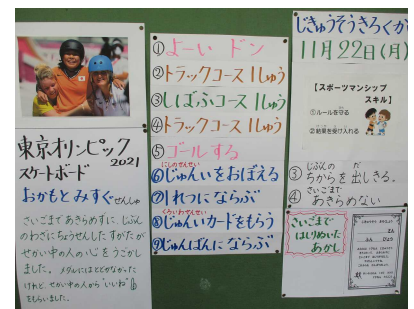
★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1

- ・支援学級の職員が複数いる利点を生かして、柔軟な支援体制をつくっていくことで、大所帯であっても、職員と子どものつながりを深めることができる。また、職員の協力体制が自然にできあがるのでありがたい。

Point2

- ・2～3学級での合同授業は、複数の目で児童を見守ることにつながり、日常的に子どもの情報や支援の方法についての情報交換がしやすくなり、きめ細やかな支援ができる。



私の提案



池田町立池田小学校
坂野みゆき

気持ちのコントロールがうまくできず、怒って物や人にあたってしまうAさん

<知障学級 小学3年生>

★支援の目標★

- ◆「頑張った」「できた」「楽しかった」と思えるような経験を増やす。
- ◆怒りが大きくなならないうちに静め、落ち着ける方法を身につける。(自立活動「心理的な安定」「人間関係の形成」)

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

1 取り組んだこと

- (1) 支援員の先生や専科の先生に学級に入っただき、担任と複数で指導する。
 - ・本児が対応してほしい時に、すぐに必要な支援ができるようにする。
 - ・物や人にあたってしまう姿を友達にできるだけ見られないようにし、友達にも影響がないようにする。
- (2) クールダウンする場所を作る。
 - ・怒りを静めて落ち着ける場所。疲れて休憩したいときに休む場所。
 - ・教室の一角をそのスペースに充て、必要になったときにすぐに利用できるようにする。
 - ・本児がお気に入りのソファやぬいぐるみを置く。
- (3) 予定表を使い、翌日の予定確認や当日の評価をする。
 - ・普段できていることも評価項目に入れ、○をたくさんもらえるようにする。
 - ・保護者にも見てもらい、学校での様子や予定を確認してもらうようにする。
- (4) 可能な範囲で、本児の好きな活動を取り入れる。
 - ・先生とのおしゃべりタイム。
 - ・音楽室で好きな楽器を演奏する。
- (5) 学校で過ごす時間を短くし、よくできた日を増やしていく。落ち着いて過ごせるようになったら、時間を伸ばしていくようにする。
 - ・イライラして物や人にあたってしまうことを繰り返すと自己肯定感が下がってしまうので、「怒らずに過ごせた」「楽しかった」という成功体験を重ねていく。



2 子どもの変容

- イライラして怒ることはあっても、大きく暴れることはかなり減った。
- 楽器の演奏を楽しむために、国語や算数の課題にも取り組めるようになった。
- 怒って騒いだり、物や人にあたったりすることができるだけ起きないように配慮してきたところ、本児の意思に沿って過ごすことが多くなり、学習につながるようなことがなかなかできなかった。

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

※改めて提案するようなことではなく、当たり前のことですみません。

- Point1 クールダウンの場所は、本児がすぐに移動できるように、普段使っている教室の近くに。置く物は少ないほうがよいが、本児にとって落ち着けるためのグッズは必要。
- Point2 すでにできていることも目標に入れる。これからできるようにしたいことは1つ。あとはできていることを入れ、「できた」を増やす。
- Point3 場合によっては、学校で過ごす時間を思い切って短くすることも考えてみましょう。1日いるとイライラすることも多い。限られた時間であれば、他の先生の力を借りて、チームで支援することもできるかもしれません。

私の提案



千曲市立更級小学校
小出 沙希

自閉症スペクトラム児の他者との関わりを育む有効な支援と手立てについて
～興味のないことはやらず、一人の世界でなんでも自己完結してしまうAさんの姿から～
＜自情障学級 小学校5年生＞

★支援の目標★

- ◆場面や状況に応じて、友だちに何らかの方法で働きかけることができる。（自立活動「人間関係の形成」）
- ◆友だちと協力して活動できる。（自立活動「人間関係の形成」）
- ◆小集団の中でマナーやルールを理解し、守ることができる（自立活動「人間関係の形成」）
- ◆小集団の中での自分の役割を理解し、活動できる。（自立活動「人間関係の形成」）

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

1 工作活動

(1) 段ボール工作【ペア活動】

おもちゃ自販機



- ① 完成前…Aさんは工作が大好きなので、立体工作の本を見ながらすぐに作りたい物を決めることができた。その後、ペアの子と話し合っ「一つの作品を作る」というルールを設けた所、ペアの子と何を作りたいかを相談することができた。
- ② 完成後…納得できる作品に仕上がったようで、完成した後も「〇〇したい」「こうすればもっと〇〇じゃない？」などよりよくしようとペアの子とアイデアを出し合ったり、おもちゃ自販機を使って仲良く遊んだりしていた。

(2) アイロンビーズ【個人活動】



駄菓子屋セット

- ① 完成前…「どんな物をクラスに飾りたいか」を考えた時、「みんなは何が好きか聞いてみる」と言って自分から自情障学級の友だちに聞くことができた。
- ② 完成後…自情障学級に遊びに来ていた他学年の子たちにも完成した物を見てもらい、「すごいね」「おいしそう」と言われ、自信とやる気がさらにアップ！「おいしい駄菓子はいらんかね～」と言って自分から色々な子たちに関わる等「お菓子屋さんごっこ」を通して友だちの輪が広がった。また、他クラスの子に「どんなお菓子をつくってほしい？」とリクエストを募るなど、「自分」だけでなく「他者」に目が向けられるようになった。

2 クロームブック(ロイロノート)の活用

「自分の良い所・友達の良い所探し」



書くことに苦手意識があるAさんだが、タイピングは得意なので、クロームブックを使った活動は意欲的に取り組んでいる。道徳で行った「良い所探し」では、良い所を書いたカードをいくつか用意しておく、友だちの姿に当てはめながら、カードをふり分けることができた。また白紙のカードにAさん独自の目線から、みんなの良い所を追加するなど、さらに発展させて取り組むことができた。その後友だちの作ったカードを見合う場面でも、「みんなどんなの作ったか気になるな～」と言って友だちの発表を最後まで聞くことができた。良い所や好きな所を考える時には「どうでもいい」「わからない」が多かったAさんだが、始めに選択肢を用意しておくことで見通しを持って最後まで活動に参加することができた。

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1 **アセスメント**の重要性…どんなことに興味があるか、何が得意かを知るには、まずは子どもとじっくり関わること！何気ない一言の中に様々なヒントが隠されています。まずは子どもの好きなこと・やりたいことから始めましょう！

Point2 **スモールステップ**で取り組もう！…ペア→小集団と段々大きくしていくのはもちろんのこと、活動内容もまずは簡単なものから。せっかくできそうな課題も、取りかかりにつまずくと子どものやる気ダウンにつながるかもしれません。

私の提案



飯山市立飯山小学校

田中 利恵

感情の調整が難しく、学校で暴言や暴力で周りの人とかかわることが多かった A さん

< 自情障学級 小学校5年生 >

★支援の目標★

- 1 落ち着いて学校で過ごす時間が増えること(自立活動「心理的な安定」「人間関係の形成」)
- 2 自分の気持ちや状態に気付いて、自分なりの方法で伝えること(自立活動「環境の把握」「コミュニケーション」)

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

1 A さんにとって安心できる楽しい学校生活作り～学校内の人的、物理的な環境調整～

(1) 物理的な環境調整

①クールダウン用の教室を用意:「さくら3」という A さんの教室を夏休み中に準備。

「さくら3」が安心できる居場所になった。自閉症スペクトラムの特性でもある音、匂い、視線等の刺激を苦手とする A さん。周りからの刺激が入にくい場所と教師と二人の穏やかな時間を保障したことで、落ち着いて笑顔で過ごすことが増えた。

②登校制限:午後、暴力や暴言が多い傾向があったため、A さんとお家の方と相談し、

遅めの登校、お昼を食べて下校とした。A さんが自分のがんばれる範囲で精一杯がんばったことを、毎日花丸で評価し、お家の方と共有した。「今日は、ここまでがんばる」「イライラして無理そうだから帰る」「今日疲れているから明日遅く来ようかな」等、自分の気持ちや状態に気づき対応することで、暴力や暴言が減ることにつながった。

(2) 人的な環境調整

①担任をキーパーソンとしたかわり:「愛着の器」モデルに基づく ARPRAM を参考に、かかわる人を限定して、安定した関係を基盤に、人間関係を広げていった。笑顔が増えるにつれて、A さんから周りの人とかかわりを求めるようになり、自分がいい状態の時には、苦手だと言っていた先生や友達とも穏やかな状態で接している姿がある。

②定期的な支援会議:1か月に1回、支援会議で A さんの様子を情報交換し、支援を検討した。A さんとかかわる人が共通理解の元、支援にあたれたことが、A さんの安心にもつながったように思う。

2 自立活動を視点に取り入れた授業

(1) 個別学習

A さんがやりたい立体アイロンビーズの活動を存分に行い、その中で教師との人間関係を形成していった。自分の思いを一方向的に主張することが減り、教師と双方向のコミュニケーションが取れるようになった。また、制作中うまくいかない時や思い通りにならない時に、暴言や破壊行動になることがあったが、振り返りや次はどうしたらよいかを教師と考えることで、気持ちや思考の切り替えができるようになってきた。

(2) 自情障学級での少人数学習 自立活動「さくらのクリスマス会をしよう」

A さんを含め自情障学級5名で、クリスマス会を行った。「みんなにここいい気持ち」を合言葉に、買い物活動、制作活動(飾り付け)、ゲーム、会食等を行った。A さんもみんなと一緒に活動ができて楽しかったと振り返った。

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1 暴力や暴言の背景を、記録から分析し、関係者と共有し、連携する。

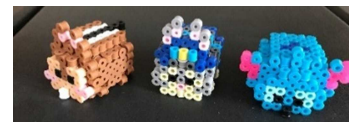
応用行動分析を参考にした日々の記録が、A さんを理解していく上で不可欠だった。校内だけでなく、家庭、医療、福祉とつながる際、客観的な意見をもらうことができ、A さんを中心にして関係者で支援を検討できた。

Point2 教師は、第一に子どもにとって安心感を抱ける人間関係を構築し、その上で授業をしっかりと準備して行う。

子どもの行動問題を無くそうという教師の思い優先で支援しているとうまくいかないことが多く、子どもの思いに寄り添い、子どもの安心や笑顔が増えてくると結果として行動問題が減っていったように思う。また、教師である以上、日々問い続け、授業改善をしながら、魅力的な授業を行い、子どもと歩んでいきたいと思う。

12月21日 火曜日

やること	やる場所 (一緒にいる人)
あさ	よてい かくにん
1	アリスさん のこ
2	アリスさん のこ
3	アリスさん のこ
4	アリスさん のこ
給食	給食を たべる



私の提案



長野市立篠ノ井西中学校
手塚 亮

自分の気持ちを表すことが苦手な A さん <自情障学級 中学3年生>

★支援の目標★

- ◆場面や状況に適した人との関わりができるようにする。
- ◆自己肯定感を高められるようにする。
- ◆自分の気持ちを適切に表せるようにする。

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

1 子どもの実態

Aさんは、自分の思ったことや気持ちを伝えることが苦手である。人間関係ができあがっていたり、気持ちが上向きだったりする場合には、比較的伝達できることもある。しかし、慣れていない人や気持ちが落ち込んでいるときは、言葉を発することができないことが多い。また、小学校の頃からできないことが多く、勉強や運動に苦手意識をもっていること等から、自己肯定感が低い。

2 子どもの気持ちを理解する

(1) 交換ノート

Aさんが特に気持ちが沈んでいる時期があった。その時期には、登校することも嫌がり、登校しても担任に顔を出して帰宅する状況で、うまく気持ちのやりとりができなかった。そこで、担任との交換ノートを使うことで、その日にあったことや思ったことを伝え合った。「ゲームをした」という短い文から、どんなゲームをしたのか、どんなキャラクターがいるのかなど、やりとりができるようになった。

(2) 負担の少ない登下校の仕方

うまく話ができない時期に、交換ノートやAさんの仕草から推測できたことの一つが、他人の目が気になるということだった。そこで、登下校の時間をずらすことや場所を変えることなどいくつか提案した。結果、登校時には、下駄箱を通らずベランダから直接教室に登校し、他の子とは時間をずらして登下校するようにした。Aさんの負担が少し軽減したのか、毎日登校できるようになった。

(3) 好きを生かす

Aさんは、物作りをしたり、機械の解体や修理をしたりすることが好きである。小学校からできないことが多く、自己肯定感が低かったこともあり、好きなことを生かすことにした。難しめのパズルを長い日数をかけて完成させたり、壊れたDVDプレーヤーを分解して、修理したりした。こうした活動をする中で、自分の好きなことを再確認し、得意だと思えるものが増えた。

(4) 思ったことを表現する

表現をすることが非常に苦手であったため、頷きや首振りなど、頭の動きを使って意志表示できるように提案した。また、場面に応じたロールプレイをし、表現の練習をした。まだまだ自己表現は苦手であるが、初対面の人とも少し会話ができて、困ってしまっても頭の動きを使って意志表示ができるようになった。

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1

- 子どもの気持ちを理解するために、日々のやりとりを大切にする。やりとりが苦手な子どもには、交換ノートや自己分析シートなど、いくつかの方法を試す。

Point2

- 得意なことや好きなことを大切にする。好きなことを把握したら、それを生かした活動を仕組む。その活動が結果として、誰かの役に立つ活動になると、自信を深められてさらに良い。

私の提案



松本市立波田小学校
大塩 貴子

自・情障学級におけるコミュニケーション活動の実際 ～気持ちの表出が苦手な Aさんと気持ちのコントロールが苦手なBさんの関わりを通して～

★支援の目標★

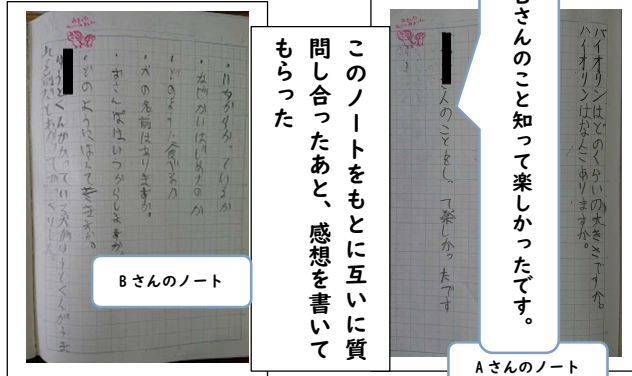
- ◆自分の考えを適切な言葉を使って話したり書いたりすることができるようになる
(3年 Aさん「コミュニケーション②」)
- ◆場面や状況にあわせた振る舞いができるようになる (3年 Bさん「人間関係の形成④」)

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

I 教科学習における自立活動を通して

(1) 国語「もっと知りたい、友だちのこと」本来はグループ学習だが、二人で関わりながら学ぶペア学習として設定した。

友達への質問を考える場面で、Aさんはどんなことを書いたらよいのか困って手を付けることができないだろうと考え、あらかじめBさんが先行して取り組んだノートを提示した。Bさんのノートに書かれている質問を確認し、Aさんに書くよう促したが、なかなか書くことができなかった。しばらくすると、Bさんが「ぼくだったら、こんな質問にするよ」と自分が答えることになる質問と一緒に考えてくれたおかげで、1つ目の質問を書くことができ、2つ目は自分で考えて書くことができた。



(2) 算数「たし算とひき算」

互いに問題を出しあう場面でAさんは初めてのことに對しての抵抗が強く、Bさんは比較的好奇心旺盛で初めてのことも理解しやすいが、聞き落としてしまうことも多い。そこで、2人に学習の進め方の説明を行ったあと、Bさんへ「どんなことをやるのかお話ししてくれる？」と学習の説明を促した。その説明をAさんに聞かせ「どうやってやるんだって？」とAさんに同じことを説明させてから学習に取り組んだ。



算数セットの数字カードを使用。問題を出す人と解く人を交代で行った。「これ、〇君は解けるかな？」と数字を相手に向けて問題を見せるなど相手意識を持った体験的学習活動ができた。

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1 「子どもの得意なこと、不得意なことをつかみ、学習活動を組む」

Aさんの苦手なところをBさんに先取りして行ってもらうことで、AさんにとってBさんは、身近なお手本になった。そして授業への取り組みにムラがあったBさんは、Aさんに頼られることで学習への意欲が高まった。以降の授業でも意図的に学習の中で関わる活動を設定することで、互いに分からないことを聞き合う姿が見られるようになった。

Point2 「学校生活のあらゆる活動が『自立活動』という視点を持って接する」

AさんとBさんは原学級が別のクラスで、原学級で授業を受けることもある。別々の時間に自・情障学級へ来ることが多く、1クラス8人の中でこの子たちだけの自立活動の時間を特設することが難しい。そこで、教科の学習や休み時間、給食、清掃など子どもたちの日常生活の中で、その子の課題改善につながる場面を見つけ出し、活動をしている。

私の提案



長野県上田養護学校
岡嶋 国久

場面緘黙で、日常生活や朝の会の司会・感想発表を自分の言葉で伝えることがなかった A さん
＜小学部 6 年＞

★支援の目標★

- ◆朝の会や帰りの会などで司会進行や発表ができること
- ◆日常生活の中で自分の気持ちを相手に伝えることができること

★★取り組んだことと子どもの変容★★

1 感想発表でのiPad「かなトーク」の利用

(1) かなトーク

iPadにあるアプリで、文字を入力すると読み上げてくれる機能

(2) Aさんの姿

事前に楽しかったことを入力しておいて、手をあげて発言することができた。「散歩」(単語)「散歩が楽しかったです」(一文)さらに「散歩が楽しかったです。歩きながらダンスをしたのが楽しかったです」(二文)へと、自分の思いを伝えられるようになった。

2 朝の会での「音声ペン」の利用

(1) 音声ペン

音声や音楽などの録音機能があり、シールに登録しておくと、シールにタッチすると再生する

(2) Aさんの姿

- ①視覚支援カードに言葉を登録したシールを貼っておき、Aさんがペンでタッチすることにより、「朝の会を始めます」「歌を歌いましょう」と進行することができた。
- ②教師や友達の顔写真に名前を登録したシールを貼っておくことで、「〇〇さん」「〇〇先生」と指名することができた。
- ③質問内容に答えるカードにも対応するようにしておくと、「月曜日です」「くもりです」と、手を挙げて答えることができた。

3 日常場面への般化

日常使いそうな言葉「おはようございます」「トイレに行ってきます」「一緒に来てください」などのカードに対応しておくようにしておくと、日常生活の場面でも気持ちを伝えられるようになった。旧担任で唯一話の出来る職員が「担任の先生とも話しなよ」と言うので「話してるよ」と答えた。家でも「学校が楽しい」と答えている。自分から発信する機会が増えたことで心が開かれ、気持ちが伝わっている感覚を得て、実際に声に出して会話はしていないが、「話してるよ」の言葉に繋がった。



★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

- Point1 自分の思いを伝える方法を自分の口で話すことだけにこだわらない。
- Point2 児童生徒に合った方法(絵カード・文字版・音声ペン・VOCA・タブレットなど)、場面に合った方法がある。
- Point3 どんな方法でも自分から発信しコミュニケーションをとることが大切で、それが自立となる。

私の提案



須坂市立須坂支援学校小学部

天野 道子

日々の安心安全、楽しさを保障すると共に、子どもがこれからの人生を楽しむために
自分達ができることは何なのかを考える。【Aさん 小学部5年生 自閉症・知的障害】

★支援の目標★

- ◆教師の言葉がけやタイマーやカレンダーを用いて、時間の流れを理解する。
- ◆学校生活や学習を通し、経験を増やし、好きなおもちゃや遊びを見つけ、自分からそれらにかかわろうとする。
- ◆適切な方法で自分の思いを教師に伝えたり、教師の思いを受け止めたりする。

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

1 Aさんについて

小学部低学年までは、教師からの誘いがあれば活動に参加していた。4年生の秋から、音に敏感な様子、特定の支援者にこだわる様子、自傷や泣き、集団への不適応などが見られ始めた。冬には教室ではなく別室で個別対応、支援者や母親へのこだわり、自傷や泣きが学校、家、事業所で見られていた。5年生からは以下の支援を大切に取り組んできた。季節や葉の変化、環境の変化によって波がありながらも、スタンスは変えずに支援を継続している。

2 人とのかかわり

(1) 集団(にじ組)がAさんに歩み寄る

4月、別場所にいるAさんのもとへにじ組の友達が移動して活動をした。
→友達が来ることで遊びに手を伸ばしたり、前日に活動した場所で待っていたりすることから、友達とのかかわりはAさんにプラスだったと考える。所属感にも繋がったのではないかと。

(2) いっぱい遊ぶ

物理的な環境を整えると共に人的環境を整えるために、待つ支援を基本にしながらもAさんの好きな感覚遊びで信頼関係の構築に努めた。

→失敗しながらも、担任3人全員が安心できる相手になった。現在では「遊んでくれ」と自らサインを出すようになった。

(3) 適切でないかかわり

Aさんが活動的になると同時に、友達や教師、支援者のことを叩いたり、物を投げたりする姿が出てきた。最初は指導をしていたが、無視に切り換えた。

→他害と捉えずにAさんの言葉と捉えた。手が出ないように構造化しつつ、出たものは仕方ないとした。少しずつ善悪の意味や謝罪の意味を学習していくことを目標としている。

3 意思の表出・コミュニケーション

(1) カレンダーによる予定、時系列の把握

毎日、視覚支援(写真)を載せたカレンダーにシールを貼った。また、予定を伝える際にも手段として用いた。

→最初は作業であったが、継続することでカレンダーの意味、予定や視覚支援の意味を把握してきた。

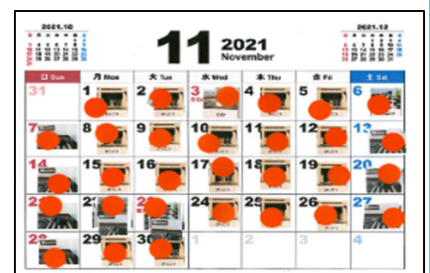
(2) 選択

「やる・やらない」「どれがいい？」という選択の機会を多く設けた。

→イラストではなく、写真が有効だった。ただ、行動で意思を表出しているのに選択させようとするのはAさんにとって煩わしいことだったようだ。選択して示すという行為に執着しないようにした。

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

- ・人生これからだから→山あり谷あり、泣いて怒って苦しんでいい。これからたくさん笑って生きられるように今どうする？
- ・Aさんにだって気持ちがあるんだよ→気分が向かないことだってある。○○しなくたって人生にはなんの問題もないさ。
- ・みんなで力を合わせて→担任、同僚、保護者、福祉、医療、地域……。みんなでAさんのために。



私の提案



長野県穂高商業高等学校
宮坂 幸登

生徒や教員が、エンパワメントな関わり方や話の聞き出し方を学ぶことで、
生徒の心身の自立活動やよりよい人間関係の形成に寄与する。

<教師の協力体制>

★支援の目標★

- ◆場面や状況にあった、人とのかかわりに対応していくこと（自立活動「人間関係形成」）
- ◆多くの職員目で生徒を多角的に捉え、理解を深めるための職員の情報共有のありかた（教職員の協力体制）

★★私が取り組んだことと子どもの変容★★

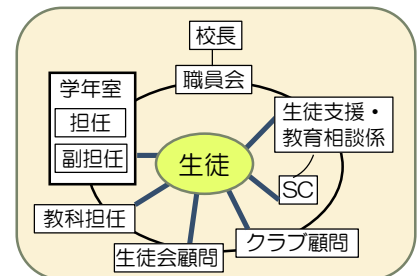
1 人間関係形成のために

(1) 生徒の実態

基本的な対人関係の構築が不十分で、生徒間の人間関係の小さなトラブルを解決できないことが発端となり、嫌がらせやいじめ、暴力、不登校や心身の不調へと発展するケースが少なくない。その多くは、他者の立場や気持ちを理解できない、折り合いをつけるためのきっかけがつかれない、相手を意識しながら感情を上手に言葉に表現することができないなど、人間関係の形成が不十分な事が多い。高校生にまで成長し人格が形成されてしまうと、自身のこれまでの経験の厚みに阻害され、他者からの支援の手がなかなか行き届きにくくなる。また、生徒は小集団でしかも希薄な人間関係が多く、トラブルを自己修復することのできないこともある。小さなトラブルや異変をできるだけ早くキャッチし、できるだけ早いうちに人間関係の修復をはかることが重要となってくる。

(2) 人間関係形成を支援するための職員の体制

学校生活を送る多様な生徒に対して、ホームルーム担任・教科担任・クラブ顧問・生徒会顧問など多くの職員が関わっている。担任や副担任はホームルームと同じフロアにある学年室に常駐しており、即応体制としている。また、トラブルや心身の不調を抱えた生徒の相談や各方面からの情報を核となって収集し、対応を検討・職員会へ報告、必要であればSCやSSWへ繋げていく生徒支援・教育相談係がある。更に、職員会で毎回生徒情報の共有をおこなっている。



① [対応例] 2年次夏休み明けから欠席・遅刻が増える異変に担任が気づいた。発端は人間関係からくる悩みであったが、次第に心身の不調が見られるようになった。9月に生徒支援・教育相談係をとおしてSCの相談へと繋げることができた。精神的不調がみられるが、本人は本校で卒業したい希望をもっており、保護者も同様であった。学年から係を経て、医療に繋げて心身の状態を徐々に回復しながら学校生活を送ることができるよう全職員に対して協力を依頼した。その後、進級に向けて学校生活を続けている。

② [職員研修] 生徒の異変を素早くキャッチすることが重要と考え、職員は5月の定期テスト期間の午後に19名の職員が参加して、「CAPながの」による相談力向上研修プログラムのワークショップをおこなった。生徒の発するSOSをいち早く捉えて支援できるようにするため、人間として決して奪われることのない安心・自信・自由の権利を捉え直し、暴力やいじめを想定したワークショップにより理解を深めた。また、今後予定している生徒に対してのワークショップにおける実施上の留意点についても学んだ。その結果、6月以降のいじめ事案の早期発見・早期解決に結びつけることができた。



暴力を受けた子どもの気持ちをグループで討議中



講師に教員が加わってロールプレイの実演中

★★★私が提案する「支援のポイント」★★★

Point1 人間関係形成は基本的生活の根本のひとつ

多角的に連携した複数の目で、早期発見・組織的に対処